

東京大学教養学部学生の体格と体力

昭和 27～45 年 (1952～1970 年) の測定結果

Physique and Physical Fitness of the Students in Their Two-Year
Junior Course Period at the University of Tokyo

— Results of the Measurement from 1952 to 1970 —

この資料は、昭和 27 年度から昭和 45 年度まで隔年の 10 年度にわたる、東京大学教養学部学生の体格・体力の記録についての標本抽出による集計結果である。

標本構成

入学年度昭和 27 年より隔年に昭和 45 年まで 10 年度の男子学生を対象とし、その中から各年度とも共通に学生証番号の末尾が〈0〉または〈5〉である学生を標本として抽出した。ただし留年・休学等で中途から他の入学年度に繰り入れられた学生については標本から除外した。したがって標本数は男子学生の $\frac{1}{2}$ 弱である。

測定時期

身長・体重・胸囲は入学時の健康診断のさいに計測したものである。その他の種目は入学後 1 年以内の正課体育時に実施したものである*。

測定方法

特に東京大学教養学部において独自の方法で実施している種目については次の通りである。

垂直跳び

昭和 43 年以降の測定値は、入学時の健康診断のさいに指高を測定しておき以後各学期ともこの値を用いて垂直跳びの値を算出する方法に変えられた。

反復横跳び

左右 120 cm 間隔の両側の線をまたぎこしてかかとをつける(線をふんではいけない)。実施時間は 20 秒間である。(ただし昭和 31 年度のみは 10 秒間である)。

腕立伏臥腕屈伸

1 回の腕屈伸のテンポは 3 秒に 1 回とし、合図(タイマー)に合わせて実施する。

踏台昇降運動

高さ 50 cm の台を用いて 2 秒に昇降 1 回のテンポで連続 3 分間実施し、運動後 1 分～1 分 30 秒・2 分～2 分 30 秒・3 分～3 分 30 秒の 3 回の脈拍合数を測定する。

ただし垂直跳び・反復横跳び・腕立伏臥腕屈伸・踏台昇降運動の 3 回ないし 6 回の測定時期は次の通りである。

第 1 回 入学時 (4 月～5 月初旬)

第 2 回 1 年次夏休み前の最終週
(7 月初～中旬)

第 3 回 1 年次学年末 (2 月初旬)

第 4 回 2 年次夏休み前の最終週
(7 月初～中旬)

第 5 回 2 年次学年末 (2 月初旬)

第 6 回 昭和 43 年度入学生のみは大学紛争の影響を受けたために教養学部在学期間が長く、第 6 回を昭和 45 年 7 月初～中旬に実施した。なおこの入学年度生は第 3 回・第 4 回の測定時期も多少ずれている。

集計内容

入学年度別・種目別に

- 1 標本全体の平均値・標準偏差
- 2 科類別の平均値・標準偏差
- 3 年齢別の平均値・標準偏差
- 4 運動部経験有無別の平均値・標準偏差
- 5 県別体格の平均値・標準偏差
(昭和 45 年度、全数調査)
- 6 各種目の相関係数行列

計算には東京大学大型計算センター HITAC 5020E を使用した。

この資料の作成は体育研究室の体力テスト検討委員会のメンバー(渡辺融・平田久雄・浅見俊雄・青山昌二・遠藤郁夫・片岡幸雄)による。

* 昭和 35 年以前の運動能力の実施時期に関しては体育学紀要第 2 号(東京大学教養学部体育研究室、昭和 38 年)を参照されたい。